

台風被害と復興支援

養蜂園のボランティアに参加して

2019年10月12日に静岡県から関東、東北地方を通過した台風19号は、各地に大きな被害をもたらした。我々が同年6月に訪れた石塚養蜂園が位置する宮城県丸森町も、阿武隈川の氾濫、大雨により多くの箇所での土砂崩れや浸水など、甚大な災害に見舞われた。報道やSNSによりその惨状に接し、数日後に養蜂園の方に連絡を取ったところ、箱の被害は出たものの人的被害はなかったとのことで一安心したが、復興の一助になればと思い、ボランティアとして5日間、現地に入ることにした。

現地入りした10月21日は台風通過から9日経過していた。水は引いていたが、収穫後の田んぼには流木や資材、日用品などの漂流物が散乱したままだった。土砂崩れの跡があちこちで見られ、阿武隈川沿いの道は自衛隊によって交通整理が行われており、養蜂園へ向かう山の中腹では実際に土砂を取り除く作業をしていた。道が崩れて半分になっている箇所も多くあったが、そのような状況の中でも、危険箇所の注意や崩れた部分を安全に通行できるように、あちこちに案内板やコーン、土嚢が置かれていた。これらは災害翌日に地域の若者や消防団の方々が道の一つ一つ回り、情報交換したためとのことだった。このことにより、各町に出ることができる経路が危険情報とともに共有され、物資の搬入などに役立ったという。

石塚養蜂園では約400の養蜂箱が流される被害に遭った。10月は夏の野草のハチミツの季節であり、川の近くに箱が置かれていた時期であったことが被害拡大の原因ともなった。また、経営の主体の一つであるイチゴ農家への交配用蜂の貸し出し用の箱もこの中に含まれている。貸し出しは10月下旬から行われる予定だったため、既に契約していたイチゴ農家に対応することができず、知り合いの養蜂園から蜂入りの箱を買い受け、それらを自分達の箱に入れ替えてから農家へと回し

ていた。これらの対応のために、被害のなかった箱の採蜜など、通常の作業も遅れることとなった。



交配用巣箱の入れ替え作業の様子

遅れを少しでも取り戻すために養蜂園は奮闘しており、私は従業員の吉澤氏の指示のもと養蜂に関する作業に従事した。初めの作業は水に濡れた巣枠を、蜜が8割以上貯まっているもの、半分以下のもの、ほとんど貯まっていないものに分けることであった。これらの巣枠は被害のなかった養蜂箱に収められ、蜜が貯まっていたものは餌となり、貯まっていなかったものは蜂自身によって清掃され再生する。自然災害によって損害を受けた巣を修復するのが蜂自身という点に養蜂の奥深さを感じた。その他、寒さ対策として使用済み餌袋を箱内に設置する作業や、蜜蓋のされた巣枠を一つの箱に集める作業、遠心分離機を使った採蜜など、遅れていた工程を進めていった。一つ一つが根気の必要な作業だが、この積み重ねが復興に繋がると感じた5日間だった。

ボランティア期間中、養蜂園の石塚代表、従業員の吉澤氏、地域のまとめ役の方と食事をする機会があった。大変な被害だったにもかかわらず三人から出てきた言葉は常に前向きで、次に何をすれば地域が明るくなり、元に戻ることができるのかというアイディアを具体的に話し合っていた。そしてその素地となっているのはコミュニティーの常日頃からの繋がりと感じた。

当記事を執筆している2020年1月現在、被災から約3カ月半が経過したが、SNS等を見ると、未だ丸森町の復興は途上である。改めて今回の災害により被災された方々にお見舞い申し上げますとともに、一日も早い再建を心からお祈りいたします。